



株式会社ネクスコ東日本エンジニアリング

# 中期経営計画

# 2026 -2030



# NEE



# この道に続く 未来のために

当社は、安全を最優先に、点検・診断があらゆる業務の起点であることを認識し、  
技術開発や業務プロセスを深化させ、自ら考え変革意識をもって、  
保全管理業務を確実に実施し、社会に貢献します。

# 目次

## VISION

### 中期経営計画で目指す姿

- 》社会において当社が目指す姿 03
- 》高速道路の保全を取り巻く環境の変化 04
- 》中期経営計画 重点計画の策定 05
- 》行動の道標<sup>みちしるべ</sup> 06

## ACTION

### 重点計画

- 》安全・安心で先進的な高速道路空間の提供 08
- 》高度な技術者集団としての社会への貢献 18
- 》働きたい・働き続けたいを実感できる会社 23
- 》社員の目標や夢の実現 27

# 社会において当社が目指す姿

当社は、NEXCO東日本グループの一員として  
未来を見据え「24時間、365日、安全・安心・快適・便利な高速道路空間」をお客さまに提供し続けます。



## 経営理念

NEXCO東日本グループは、  
高速道路の効果を最大限発揮させることにより、  
地域社会の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献します。

## 経営ビジョン

NEXCO東日本グループは、  
地域・国・世代を超えた豊かな社会の実現に向けて、  
「つなぐ」価値を創造し、あらゆるステークホルダーに貢献する企業として成長します。

## 経営方針 当社が 目指す姿

1



新技術の導入やDX\*を推進し、保安全管理等の効率化・高度化を進め、  
安全・安心で先進的な高速道路空間を提供します。

2



インフラの老朽化、災害の激甚化等の社会課題に対し、経営基盤の強化を図り、  
変革意識を持った高度な技術者集団として持続可能な社会の実現に貢献します。

3



健康経営や人材育成を推進し、働き方ニーズの多様化への対応やDE&I\*\*を実現する  
新たな社風を創造し、「働きたい・働きたい」を実感できる会社を実現します。

4




目標や夢に向かって、社員一人ひとりが自ら考え、  
チャレンジすることを積極的に応援します。


\*DX（デジタルトランスフォーメーション）データとデジタル技術を活用し、業務・サービスの高度化を図る取り組み \*\* DE&I（Diversity / Equity / Inclusion）多様性・公平性・包摂

# 高速道路の保全を取り巻く環境の変化


老朽化の進行、気象の極端化、労働力人口の急激な減少など、高速道路の保全是多くの課題を抱えています。



インフラの  
同時多発的な  
老朽化の進行



気象の極端化、  
災害の激甚化、  
頻発化



少子高齢化の  
急激な進展と  
労働力人口の  
急激な減少

▶ これらの変化の中で

我々は、高速道路のホームドクターとして、  
培った経験と高度な技術力で、  
いつもの風景を守り続けます。

NEE

# 中期経営計画 重点計画の策定

## 2030年に向けて

当社はこれまで、安全・安心な高速道路空間の提供を使命として、保全や技術支援を通じてその役割を担ってきました。

事業環境の大きな変化に対し、従来の延長ではなく、変革を前提とした取り組みが求められています。ですが、社会インフラを支える責務は変わりません。

そして、その実現の主体は現場で働く社員一人ひとりであり、社員が力を発揮し続けられることが、会社の持続的な成長の基盤となります。

これらを踏まえ、当社の目指す方向性として、4つの重点計画を策定しました。



# 行動の道標

行動の道標に基づき、一人ひとりの行動を通じて中期経営計画を実現します。

## 若手社員による行動の道標の継承

若手社員たちからの視点を重視し、社員一人ひとりがとるべき行動を定めた「NEE's Way \* 行動の道標」を未来へとつなぎます。

### NEE's Way 行動の道標

Good road Good people  
～安全・安心な道路を信頼できる仲間と～

私たちは、  
みんなの高速道路、みんなの毎日、  
みんなの笑顔を守るため、  
チームNEEとして挑戦しつづけます。



1

私たちは、相手の気持ちを大切にし、感謝の心を忘れず、家族、友人に誇りを持てる行動をします。

2

私たちは、点検・診断があらゆる保安全管理の起点であることを認識し、誠実に自らの責務を果たします。

3

私たちは、高速道路の保安全管理のプロ集団として、あたりまえの安全を守り続けるため、技術を磨き、培ったノウハウを次の世代につなげます。

4

私たちは、一人ひとりの個性を尊重し、チームNEEの仲間として支え合い、仕事の質と効率を高めます。

5

私たちは、柔軟な働き方と笑顔あふれる働きがいのある職場を大切に、健康で充実した毎日を実現します。

\*NEE: NEXCO-EAST Engineering 社名の英語表記の頭文字をとって「NEE」と呼んでいます。

# Good road Good people

～安全・安心な道路を 信頼できる仲間と～



# 安全・安心で先進的な 高速道路空間の提供

## 概要

当社は、高速道路空間の安全・安心の確保を使命とし、インフラの点検・診断の確実な実施とその効率化・高度化を推進します。

点検で見つかった劣化や損傷を早期かつ効率的に補修する技術の開発、及びリニューアルプロジェクトや耐震補強に必要な調査を計画的に実施します。

また、頻発化する自然災害に備えた事前調査と体制強化などを進め、災害発生時の被害拡大の予防と迅速な復旧を実現します。

さらに、自動運転社会の実現に向けた次世代高速道路の実証など、新たなプロジェクトの支援にも取り組み、先進的な道路空間の提供に貢献します。



当たり前の日常を守るための  
現場点検・診断の確実な実施

点検の効率化・高度化

次世代点検 Road Eye-DAYS

新たな補修方法の導入及び  
補修工事の円滑な推進

インフラ老朽化の進行を踏まえた  
リニューアルプロジェクトや  
耐震補強等の推進支援

災害対応力の強化

設備復旧、調査等業務の  
効率化・高度化

DX・AIX\*の推進

更なるサービス向上や新たな価値創造にむけた  
次世代高速道路  
moVisionプロジェクト推進支援

高速道路を安全・安心な状態に保つために、保全管理業務の起点となる現場点検・診断を確実に実施していきます。

### 取り組み

#### ① 点検・診断の確実な実施

⇒道路構造物・設備の老朽化の進行や、新規供用による管理延長の増加に対し、確実かつ効率的な点検計画を立案し、点検・診断を確実に遂行します

### 背景

- 現場点検・診断はあらゆる保全管理業務の起点です
- 道路構造物・設備の健全性を保ち、長期にわたり安全・安心な高速道路空間を提供することが求められています

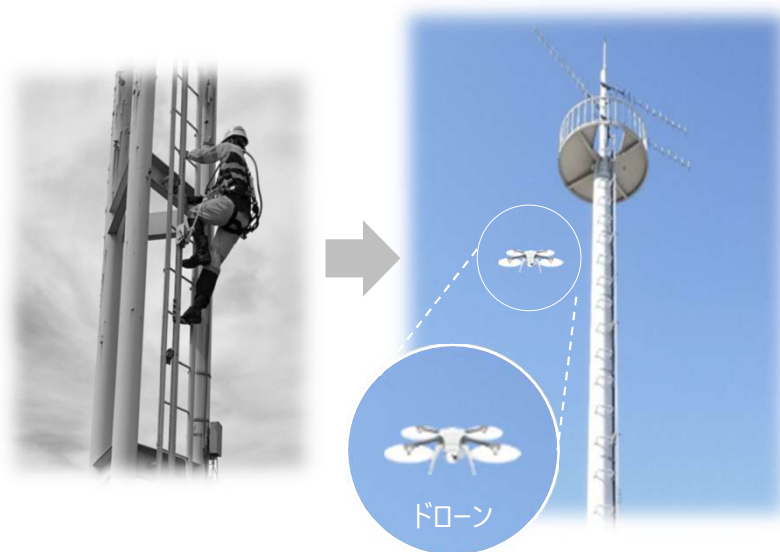


人手に依存していた危険を伴う点検困難箇所への点検・診断を高度化・効率化した仕組みへ転換します。

取り組み

✓ 施設点検困難・危険箇所への  
ドローンを活用した点検効率化・高度化

- ⇒ 鉄塔・橋梁添架管路等の点検困難・危険箇所へのドローンを活用した点検の確立を段階的に進めます  
※15m以上の高所を対象（ビームリフト使用不可の箇所）



ドローンを活用した点検への転換イメージ

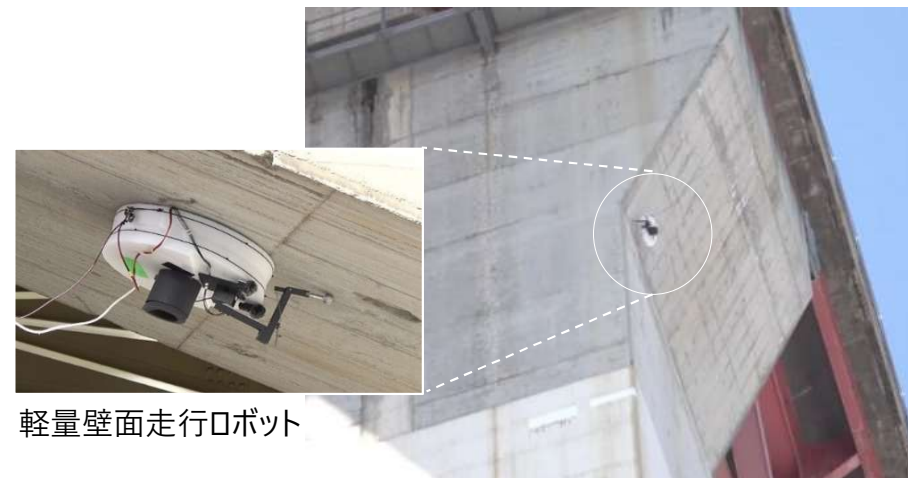
背景

- ・ 昇降梯子のような高所点検は**転落リスク**が高いため、点検員の安全確保が必要です
- ・ 不安定な足場では、損傷箇所の写真撮影が困難なため、点検に時間を要することから、**作業効率の低下**も課題となっています

取り組み

✓ 軽量壁面走行ロボットの  
開発と適用範囲の拡大

- ⇒ 高所点検に用いる高所作業車や橋梁点検車では接近できない高橋脚などの点検困難箇所に対し、打音点検が可能なロボット（軽量壁面走行ロボット）を開発中です
- ⇒ 打音点検が可能なロボットの導入により、**人による危険箇所の点検及び点検の削減や点検の効率化・合理化**を図ります
- ⇒ 橋脚のほかボックスカルバートなどへの適用も期待できます



軽量壁面走行ロボット

背景

- ・ 点検困難箇所については、これまでロープアクセスやゴンドラ車等の特殊大型車両により点検を行ってきました
- ・ 危険作業及び**交通規制の削減**を図るため、より安全かつ確実な点検手法の検討が必要でした

点検員が主体の日常点検を高度化し、リアルタイムデータ分析で道路状況を可視化する次世代技術を開発します。

取り組み

✓ 全方位自動点検車 Road Eye-DAYS\*の実装

- ⇒ カメラやセンサ、AIなどの技術を活用し、道路空間の状態を自動的に把握・記録できる仕組みを構築します
- ⇒ 日常点検の際に路面性状測定も自動取得できる技術開発を進めます



\*Road Eye-DAYS

約80km/hで走行しながら、道路空間の映像取得と路面性状測定を同時に行う全方位自動点検車です。道路空間の変化をAIで自動検出し、路面のひび割れなども自動で計測、解析までできます。

背景

- 2030年には労働人口が3割減となり、働き手の確保が難しくなると予想されることから、業務の効率化と高度化が急務です

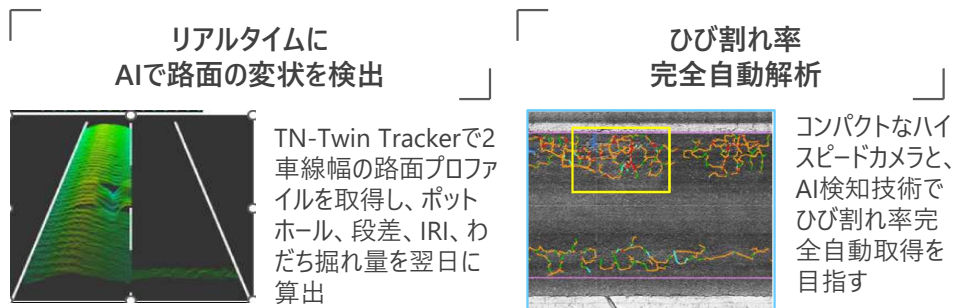
空間解析機能

高精細カメラ映像をAIで分析し、道路空間の変状を自動検出します



変状解析機能

高精度なTN-Twin Tracker(LiDAR)での高さ計測とハイスピードカメラでのひび割れ計測により路面変状を検出します



これまでに蓄積されたデータや知見を活用し、DX・AIXを推進することで、より高度な技術で高速道路の安全を守ります。

取り組み

① 鋼橋の新たな簡易補修の導入

⇒従来工法と比べて早期かつ効率的に対応でき経済的にも有利な「CFRP\*成形板を用いた鋼橋桁端補強工法」を提案し、迅速な補修により健全性を確保します

- 鋼桁端部の漏水等に起因した損傷調査
- CFRP成形板接着工法による補修検討
- 補修設計・施工マニュアル作成 など



CFRP成形板接着工法

背景

- 伸縮装置からの漏水等により鋼桁端部の腐食、減肉、孔食等が進行しています
- 一方、点検結果からの損傷調査、補修設計、工事実施までに期間を要しています

取り組み

① 新たな施工管理手法による現場管理の効率化

⇒舗装の状態を電磁波で測定する手法「PaveScan」を開発します

⇒舗装からサンプルを切り取らずに、密度や空隙率及び舗装厚を確認することで面的に広範囲な現場管理が可能となります



PaveScan

背景

- これまでは施工した舗装からサンプルを切り取りして品質や出来形を確認しているため、立会頻度や作業時間を多く要していました
- 切り取り箇所は雨水の侵入など構造物の弱点になる恐れもあります

取り組み

① 施工管理による工事の監督支援の継続

⇒道路の維持修繕工事あるいは建設工事の発注に必要な資料作成や工事施工の監督支援を行います

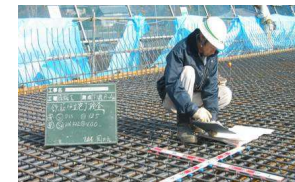
- 舗装改良工事
- 遮音壁設置工事
- 道路情報板設備工事
- 保全・資産情報管理
- ETC設備工事 など



材料試験



積算・打合せ



構造検査



出来形検査

背景

- 工事発注に必要な設計や積算などには、経験や専門的な知識が必要です
- 工事目的物の強度や耐久性を確保するため、施工が適正に行われるよう監督支援を行います

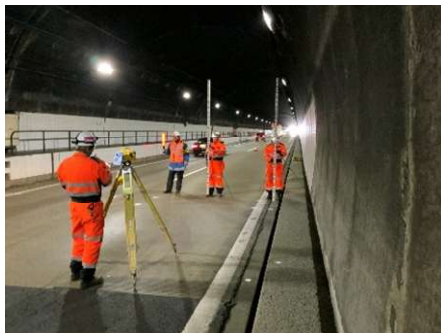
\*CFRP (Carbon Fiber Reinforced Plastics) 炭素繊維強化プラスチック

補修が必要なトンネル等の道路構造物のリニューアルプロジェクトや耐震補強対策の推進を支援します。

取り組み

① **リニューアルプロジェクトの推進に関する技術支援**

- ⇒トンネル性状評価及び、のり面性状とグラウンドアンカーの健全度評価を継続します
- ⇒橋梁の大規模修繕工事に関する詳細調査・図面作成支援を継続します
- ⇒リニューアルプロジェクトにおける交通運用計画を検討・策定します



調査状況



背景

- 高速道路設備の老朽化が進行しており、トンネル、のり面、橋梁床版などについて、継続的な変状調査ならびに対策の検討が必要です

取り組み

② **耐震補強工事に関する事前調査・対策工法の選定支援**

- ⇒橋脚の耐震補強工事（コンクリート増厚工法等）に先行して、橋脚に浸透した塩分量を確認するために、橋脚コンクリートから試料採取します
- ⇒採取した試料の塩分含有量試験と塩分拡散予測を行い、最適な補修工法を提案します



試料採取



背景

- 凍結防止剤や飛来塩分による塩分浸透や劣化変状が生じている橋脚に対して、適切な塩害対策措置を講じた上で耐震補強を進める必要があります

災害リスク調査による災害の未然防止と発災時の対応の迅速化、高度化を実現します。

取り組み

① 区域外災害リスク調査の開始

- ⇒ 机上調査で特定した災害リスクの高い**渓流**について現地調査を実施します
- ⇒ その結果をもとに渓流調書の作成、対策渓流の選定、**防災カルテ**を作成します
- ⇒ 併せて高速道路管理用の図面や各種台帳も継続して整理します



渓流の現地調査

背景

- 極端化する気象に伴い高速道路に到達した**土石流災害**は近年増加しています
- 復旧性、社会的影響の観点から被害を軽減させるための対策を進めるために危険個所の整理が必要です

取り組み

② チーム・ハイウェイドクターズによる災害対応支援

- ⇒ **災害対応班**および**UAV班\***で構成する「チーム・ハイウェイドクターズ」を派遣します
- ⇒ UAVなどによる被害状況の確認、必要な測定、応急対策の立案を行います



チーム・ハイウェイドクターズ

背景

- 早期に復旧させるためには、豊富な経験や高度な技術力による迅速かつ的確な被害状況などの把握が必要です。

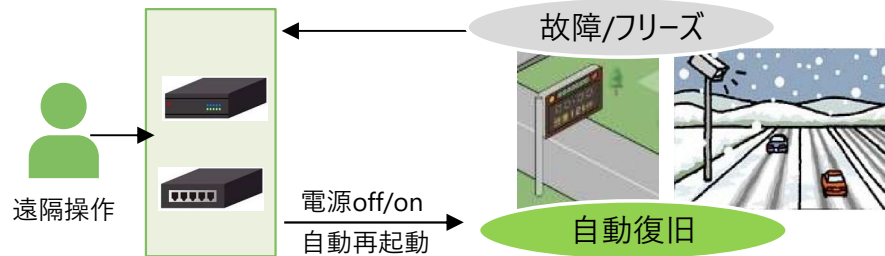
\*UAV班 ドローン (UAV: Unmanned Aerial Vehicle = 無人航空機) を使って、高速道路や橋梁、法面、災害現場などを調査・点検する技術チーム

各種装置の開発や新技術を導入し、業務の最適化を図ります。

取り組み

① モデム電源自動復旧装置の導入

⇒ 高速道路の設備機器が故障・フリーズした場合に、遠隔操作で電源リセットが可能な自動復旧モデムを開発・導入します



モデム電源自動復旧の概念図



背景

- お客さまへの影響を最小化するため、高速道路の施設設備は、障害発生時には迅速な復旧が求められます

取り組み

② BIM\*による設計業務の効率化・高度化

⇒ BIMを活用した3Dモデルによる設計の可視化を行い、発注者との合意形成・意思決定を迅速化します



3Dモデルによる設計の可視化

背景

- 2次元設計では設計内容の把握が容易ではないため、迅速な合意形成や意思決定が難しく、打合せ時間や回数が増えることにより、業務負担が大きくなっています

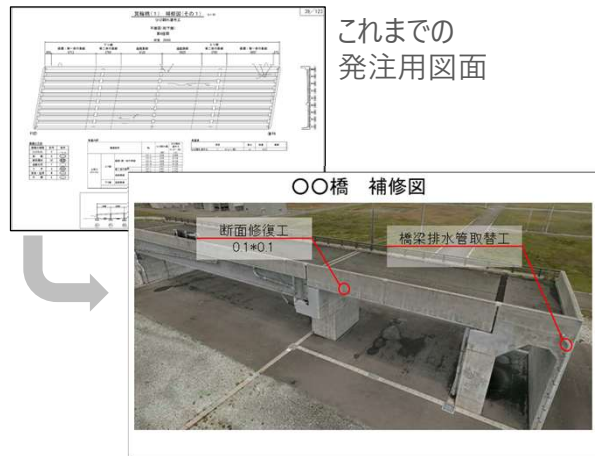
\*BIM 建物・構造物を3Dモデルと属性情報つきで管理する仕組み

これまでに蓄積されたデータや知見を活用し、DX・AIXを推進することで、より高度な技術で高速道路の安全を守ります。

### 取り組み

#### 3Dモデルを基盤とした 損傷状況の見える化

- ⇒3Dモデルを活用して、点検・設計・施工者間で道路の変状情報などを共有します
- ⇒発注用図面を3Dで作成することで、発注業務を効率化・高度化する仕組みを構築します



新たな仕組みを構築  
3Dモデルで補修箇所を共有

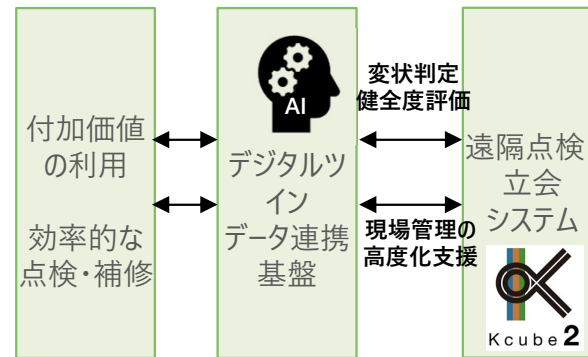
#### 背景

- これまでの発注用図面（2次元）では、補修箇所や補修面積を正確に表すことが困難でした
- このため、工事契約後に補修箇所などの見直しが生じていました

### 取り組み

#### 遠隔立会の拡大と工事情報システムの改良による現場管理の効率化

- ⇒AI等の最新技術を活用し、点検・診断の正確性・効率性を向上させます。
- ⇒ドローンや車載・360度カメラとデジタルツイン\*を活用した遠隔点検・工事立会システムの開発により、現場管理の省人化と品質の向上を実現します



遠隔点検・工事立合システム

#### 背景

- 従来の点検方法は人手による現地作業が中心で、時間と労力を要しています

\*デジタルツイン 実際の道路や設備の状態をデータとして再現したもの

### 取り組み

#### AIによる施設構造点検判定の自動化

- ⇒専用端末において、トンネル照明設備構造点検の「錆」の状況をAIで判定補助を行い、保守員の負担軽減を目指します



アプリ使用時のイメージ

#### 背景

- 点検の判定基準は明確にありますが、実際の現場状況との整合を図るのに手間がかかり、業務の負担となっています

自動運転車に対し、交通状況や分合流地点の情報を提供することで、安全・円滑な交通環境を確保します。

取り組み

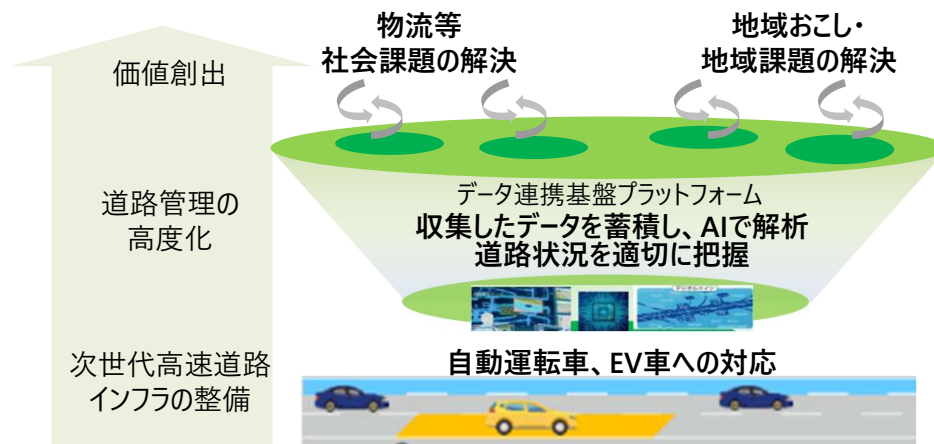
① 自動運転社会にむけた次世代高速道路 moVisionプロジェクト推進支援

- ⇒ 多機能ポールに設置したカメラなどを活用し、走行状況や道路環境の変化をリアルタイムで収集してお客様（運転手）にお知らせする実証実験を実施します
- ⇒ 車両の動きや道路状況を「デジタルツイン\*」を再現し、インフラ整備の効果や安全性を、分かりやすく確認できる環境を整備します
- ⇒ また基礎となる交通量、渋滞、事故や休憩施設利用状況など各種データの統計を継続して行います

背景

- 自動運転などの技術が進展する中で、車両単独では把握しきれない道路状況を、多機能ポールが先回りして提供していく必要性が高まっています

データ連携・活用の検討



NEXCO東日本と東京大学との「データ利活用に関する共同研究」でR7から実施しているデータスペース研究会（メンバー；ソフトバンク、ジョルダン、矢崎総業等）と連携しながら実施

\*デジタルツイン 実際の道路や設備の状態をデータ化し、仮想空間上で再現したもの

多機能ポールの整備



| 実証実験区間  | 施設の整備   |
|---|---|
| <p>宇都宮IC<br/>E4 東北道<br/>鹿沼IC～宇都宮IC<br/>11.5km</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>多機能ポール</b><br/>300m間隔で路肩に配置<br/>計69基、230台のカメラ</li> <li>● <b>光ファイバセンシング</b><br/>道路に敷設し光の反射をAIで解析し速度等を計測</li> </ul> |
|   | <p><b>モデル事務所の設置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>宇都宮管理事務所をmoVision推進モデル事務所に選定</b></li> </ul>   |

国土地理院 地理院地図より引用

# 高度な技術者集団 としての社会への貢献

## 概要

産学官との連携・共創での製品開発・外部連携の取り組みを通じて、当社が持つ専門性を高め続け、社会全体に役立てていきます。

また、これまでに培った知識と経験を社会に還元し、地域の安全・安心とサステナブルな暮らしを支えます。

さらに、日本で培った保全・点検技術を海外に展開し、諸外国の道路インフラの高度化と安全性向上に貢献します。



より高度で幅広い技術の確立を目指す  
産学官との連携、**研究・開発**

**カーボンニュートラル社会\***への貢献

\*カーボンニュートラル社会 温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、全体として排出を実質ゼロとする社会

高速道路で培った  
技術力・ノウハウの社会への還元

諸**外国**への技術協力

技術者集団としてのさらなる高度化を図るため、外部連携による共創基盤の構築とハイエンド人材の育成を推進します。

取り組み

✓ 大学や他企業との協働、共創を強化した技術開発の推進

- ⇒実施事例の調査、必要な情報等の収集、環境整理を行います  
(制度・文化・資金・組織・スキルなど)
- ⇒試行する技術開発の特定、パートナー候補、契約等の整理を行います
- ⇒大学や他企業との共同研究プロジェクトを立ち上げ、共同開発等を実施（試行）します



D-RED\*



背景

- ・ 研究開発の一部において大学、企業等と共同開発を行っています
- ・ より高度な技術革新や多様性をふまえた研究開発の推進が必要になっています

取り組み

✓ インフラ企業同士の技術交流による共創活動の推進

- ⇒交流会を通じて、相互の技術情報交換を促進し、当社の技術開発力をより強固なものとするを旨します
- ⇒このため、当社と類似した事業環境を持つ企業との技術交流会を開催します



技術交流（イメージ）

背景

- ・ これまではNEXCO東日本グループ内での技術連携を強力に進めてきました
- ・ 当社と同様の事業環境を持つ他企業との交流は限られ、新しい技術や取り組みに触れる機会が不足していました

取り組み

✓ 国内外の学会、国際会議への参加

- ⇒国内外の学会や会議に積極的に参加し、活発な技術交流に取り組みます
- ⇒最新の知見や先端技術を取り込むとともに当社で培った知見や技術成果を世の中に発信します



ロボティクス・メカトロニクス講演会



国際学会

背景

- ・ 未来に向けた保安全管理の効率化や高度化をよりすすめていくために最先端の発想や技術を必要としています

\* D-RED（北海道大学のデータ駆動型融合研究創発拠点） 産学連携によりAI・マルチメディア解析技術を活用してインフラメンテナンスの高度化と社会実装を推進する研究拠点

重点計画 2 高度な技術者集団としての社会への貢献

CO<sub>2</sub>排出の削減と炭素吸収機能の維持・回復を両輪で推進し、カーボンニュートラル社会の実現に貢献します。

### 取り組み

#### ① トンネル・道路照明のLED化

⇒トンネル照明や道路、サービスエリアで使用する道路照明の高圧ナトリウムランプ等を省エネルギーかつ視認性に優れたLED照明に交換します



これまでの照明



LED照明

#### 背景

- NEXCO東日本グループは、自社の活動によるCO<sub>2</sub>排出量について、**2050年度の実質排出量ゼロ**の達成を目指しています
- 中間的な目標として、2030年度におけるCO<sub>2</sub>年間排出量を2013年度比50%以上の削減を目指しています
- この目標達成に向け、2030年度までに道路照明の100%LED化を完了させます

### 取り組み

#### ② 炭素吸収源の要となるのり面樹林の持続可能な管理計画の策定

⇒40年超経過樹林の効率的な更新手法の検討を進めます

⇒40年を超過していないのり面樹林では、将来を見据えて問題を解決しながら維持する**間伐の推進**を行います



試験施工箇所の現地確認



#### 背景

- 高速道路ののり面の樹木は、CO<sub>2</sub>削減に大きく寄与しています
- これらのうち、供用後40年超を迎えた樹木は、高木化、老朽化により、**倒木などの安全リスクの問題**を抱えています
- そこで問題を解決しながら、持続的な炭素吸収源を維持活用するためには、効率的なのり面樹林の更新による機能回復が必要です

高速道路で培った道路維持管理の経験や保有する技術力で社会に貢献します。

取り組み

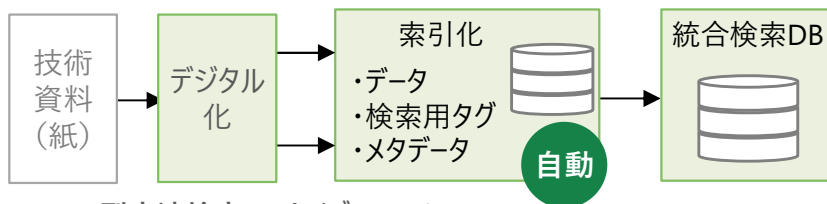
① 自治体などが管理する道路への技術力の提供

⇒青森県道路公社及び宮城県道路公社が管理している一般有料道路のETCシステム保守を実施しています



ETC保守状況

⇒技術資料等の紙文書を電子化する際に自動でタグ付けを行い、効率的に保管・活用できるINDEX型高速検索アーカイブシステムを提供していきます



INDEX型高速検索アーカイブシステム  
文書の電子化以降、一連の処理の自動化を実現します

背景

- これまで培ってきたETC保守技術を提供することで、他の有料道路の利便性向上を実現します
- 膨大な資料の整理・利活用の課題に対応する開発技術を社会に還元します

取り組み

② 開発製品の社会での活用

⇒ 現場作業の改善・効率化を目指した技術製品を開発・販売します



製品例 E-inspection 333eye 回転式打音点検器  
金属製多面体装置を転がすだけで点検が可能です

背景

- 現場課題の解決に向けて開発した技術・製品を活用いただき、地域インフラの安全・安心確保に貢献します

日本で培った保全・点検技術を海外に展開し、諸外国の道路インフラの高度化と安全性向上に貢献します。

取り組み

✓ E-NEXCO INDIA\* と協働した  
路面性状調査の技術支援

⇒ 国内で培った経験を活かし、インドにおける路面性状測定  
の技術支援を実施しています

- 測定機器の構造や解析手法等の説明
- 測定方法及びデータ取得の手順や留意点の解説
- その他の工夫やトラブル防止の仕組みの情報提供
- 使用環境の違いによる測定機器改良の支援

背景

- インドでは、経済発展に伴い道路網の拡充が急速に進んでいます
- 日本と大きく異なるインドの厳しい気候・道路環境においても、測定機器等にトラブルの発生等が無く、計画通りの業務実施できるよう測定機器の運用面やハード面等の技術支援が必要です



路面性状測定車



\*E-NEXCO INDIA PRIVATE LIMITED

NEXCO東日本は世界最大規模の高速道路整備が見込まれるインドにおいて、NEXCO東日本グループの保有する技術とノウハウを広く提供するため、平成21年10月に拠点を設置し、令和元年11月にNEXCO東日本グループ初の海外子会社として事業を開始しました。

# 働きたい・働き続けたいを 実感できる会社

## 概要

社員の生命と健康を守ることは会社として最も基本的な責務であることから、安全・安心で快適な職場環境の確保と継続的な労働安全衛生の改善に取り組めます。

当社は、すべての社員が健やかに生き活きと働くことができるよう、社員の生命と健康を守り、それぞれが「この会社で働きたい」「これからも働き続けたい」と実感できる企業づくりを推進します。



社員が安心して働き続けられるための  
**安全・健康基盤の整備**



社員の働く**環境の改善**



安全・安心な高速道路空間の提供に資する  
**技術力向上・人財育成**

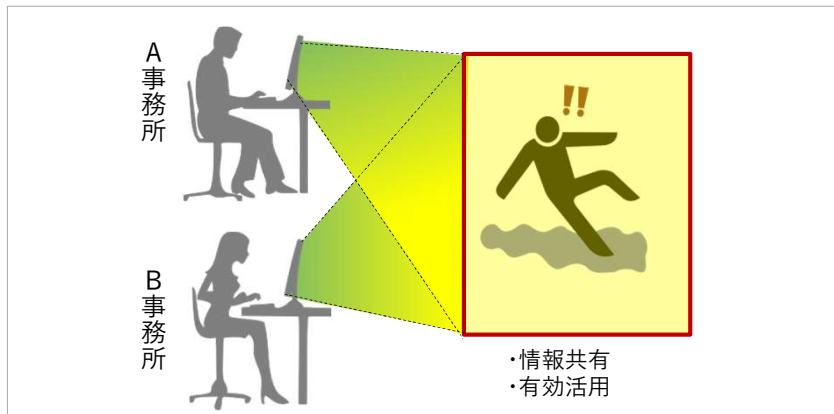
「社員がいつまでも健康で生き生きと働ける」確固とした経営基盤を構築し、社員の「働きがい」「やりがい」を推進します。

### 取り組み

#### ① 作業の安全確保のための新たな取り組み

- ⇒安全意識調査を行い、課題に対応します
- ⇒現場のヒヤリハットデータを収集し、安全対策強化にむけて利活用を促進します

ヒヤリハットデータの利活用



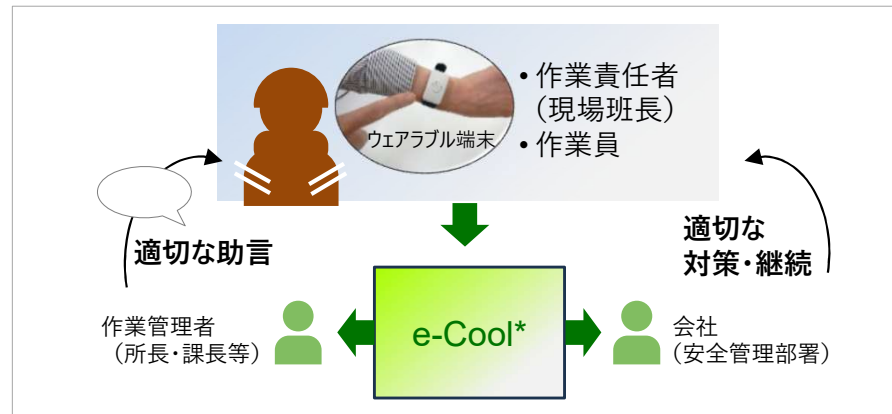
各現場で蓄積されているヒヤリハットデータを収集し、全社的に有効活用できるシステムを構築することで、情報が見える化及び水平展開を図り、安全対策を強化する。

### 取り組み

#### ② 暑熱環境下での安全対策

- ⇒熱中症対策の報告体制をデジタル化します
- ⇒ウェアラブル端末などを活用し、暑熱環境下での作業の熱中症対策を強化します

作業場面での報告体制のデジタル化



デジタルツールを活用した「熱中症防止のための管理表」の検討・試行運用を行い、最適な報告システムを構築する。

\*e-Cool 現場の熱中症リスク管理を効率化し、データに基づく予防と改善を継続的に支援するアプリケーション

健康で安全に長く働ける環境を整えます。また、スキルと現場ノウハウを蓄積することで、働く環境を改善します。

取り組み

① 社員等の健康維持・増進の継続による健康経営の推進

- ⇒ 社員等の健康維持・増進の取り組みを継続します
- ⇒ 生活習慣の改善対策やメンタルヘルスケア対策を継続し、健康経営を推進します

例) 保健師巡回

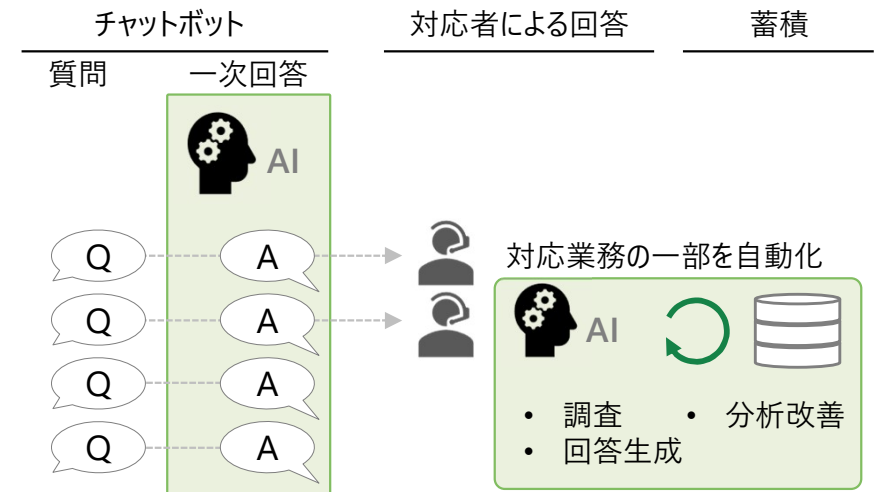


「保健師巡回」は本社保健師と健康経営の専門部署である「健康増進支援室」のスタッフが、全ての事務所を回り、全社員と個別面談・個別健康指導を実施する取り組み。

取り組み

② 問い合わせ対応業務を削減するAIエージェント\*の導入

- ⇒ 社内からの問い合わせにAIが一次対応するチャットボット\*\*を導入します
- ⇒ 問い合わせ対応業務を削減し、人員を高度な関連業務に移行します



AI導入による問い合わせ対応業務の削減 概念図

背景

- 業務に関する規定やルール、手続きなどの問合せが増加し、担当部署の負荷が増えて回答に要する時間も長くなっていました
- 問合せの内容や回答結果を分析し、改善につなげる取り組みも十分ではありませんでした

\*AIエージェント 業務の目標を理解したAIが、ユーザーに代わって適切なツールを自動で使い分け、タスクを実行するソフトウェア

\*\*チャットボット ユーザと対話形式でやり取りし、質問に回答するプログラム

技術力の向上・継承と担い手確保に向け、専門知識と実践力を兼ね備えた人財を育成します。

取り組み

① 高速道路の安全・安心を支える人財育成拠点（TTC\*）の整備

- ⇒ TTCは、NEXCO東日本グループ全体の技術力向上を支える中核的な研修施設です
- ⇒ 実機・実環境での**実践的研修**を行い、点検・保守に必要な専門技術を習得します
- ⇒ 技術の高度化を図り、若手の早期戦力化からベテランの技能継承まで一貫で対応します



人財育成拠点（TTC）

\*TTC テクニカルトレーニングセンター

取り組み

② 熟練技術を伝承するための多面的な取り組み

- ⇒ **技術アドバイザーや外部講師**による勉強会・講演会を開催します
- ⇒ **ベテラン技術者**のノウハウを盛り込んだ現場作業を再現したマニュアル動画を整備します



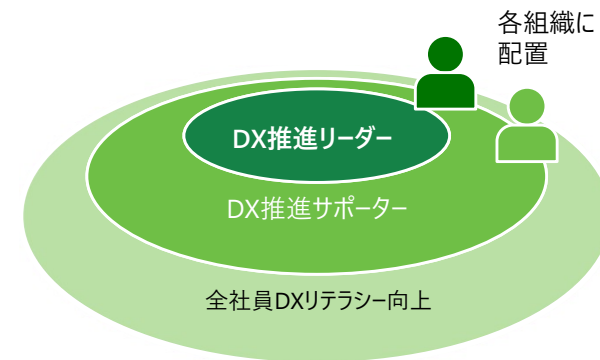
老朽化した橋梁から切り出した実物供試体

橋梁の劣化を学ぶため、実物から切り取ったサンプルをTTCで教材として使用しています。

取り組み

③ DXを推進する人財の育成

- ⇒ 全社員にDXリテラシー研修を継続します
- ⇒ 課題解決型研修などを行い、「DX推進リーダー」を育成して各組織に配置します
- ⇒ デジタル技術に関するeラーニング研修などを行い、リーダーとともにDXを推進する「DX推進サポーター」を育成します



DX推進体制

※令和6年8月DX認定を取得

働きたい・働き続けたいを実感できる会社

# 社員の目標や夢の実現

## 概要

会社の持続的な成長と新たな価値創出のためには、社員一人ひとりが日々の課題に挑戦し、学び続け、成長を重ねることが欠かせません。

それぞれが目標や夢を持ち、日々の業務を通じて専門性とキャリアを磨きながら、成長の手応えとやりがいを実感できる職場環境を整備していきます。



学位・資格や専門技術の取得を目的による  
**社員一人ひとりの  
専門性や技術力向上を支援**

**社員の声を起点に、働き方と  
成長を支える制度を設計**

**スライド勤務・時短勤務の拡充、  
リフレッシュ休暇制度の創設**

制度・仕組みの整備を通じて持続的な成長と価値創出につなげます。

### 取り組み

- ✓ 学位・資格や専門技術の取得による  
社員一人ひとりの専門性や技術力向上を支援

⇒ 国内外大学等への留学制度を創設します



留学制度（イメージ）

### 取り組み

- ✓ 社員の声を起点に、働き方と成長を支える制度を設計

⇒ 多様な働き方やキャリアプランを選択できる  
よう既存の制度を拡充します

⇒ DXやAIを活用した業務効率化や技術伝承  
に関する先進事例を調査し、知見を得ながら  
制度を設計します



社員の声

### 取り組み

- ✓ スライド勤務・時短勤務の拡充、  
リフレッシュ休暇制度の創設

⇒ 時短勤務制度の対象を拡充します  
育児・介護以外（通院、資格取得、ボランティア、  
育休対象年齢引上等）

⇒ 勤続年数に応じたリフレッシュ休暇制度など  
の導入により、社員の生活の充実を支援し、  
働きやすい環境づくりを推進します



リフレッシュ休暇制度の創設（イメージ）



株式会社ネクスコ東日本エンジニアリング